

報 告

# 兵庫県立コウノトリの郷公園への来園者の特性

\* 菊地直樹<sup>1</sup>

## The report of the survey to the visitors of Hyogo Park of the Oriental White Stork

\* Naoki Kikuchi<sup>1</sup>

<sup>1</sup> Institute of Natural and Environmental Sciences, University of Hyogo/Division of Research, Hyogo Park of the Oriental White Stork, 128, Shounji, Toyooka, Hyogo 668-0814, Japan

\* E-mail: nkikuchi@stork.u-hyogo.ac.jp

### はじめに

2005年の放鳥以降、コウノトリの野生復帰は社会的に大きく注目されている。野生復帰の拠点である兵庫県立コウノトリの郷公園（以下、郷公園）の来園者数は、2006年に48万人を数え、それ以降も30万以上で推移している（表1）(1)。野生復帰によりコウノトリに関心を持つ多数の観光客が豊岡市を訪問するようになり、コウノトリは観光資源として位置づけられるようになった。大沼・山本（2009）が、野生復帰による観光客の増加は地域に年間約10億円の経済波及効果をもたらしていると算出したように（2）、コウノトリの観光資源化は地域社会に新しい産業の基盤を与えている。

コウノトリの生息地は水田や里山など地域住民の生活

表1. 兵庫県立コウノトリの郷公園への来園者数の推移。

年 度	来 園 者 数
1999	34,727
2000	119,904
2001	131,340
2002	154,793
2003	164,274
2004	124,878
2005	242,102
2006	487,633
2007	455,373
2008	417,159
2009	365,349
2010	301,575

<sup>1</sup> 兵庫県立大学自然・環境科学研究所／兵庫県立コウノトリの郷公園

668-0814 兵庫県豊岡市祥雲寺字ニヶ谷128

\* E-mail: nkikuchi@stork.u-hyogo.ac.jp

環境であることから、野生復帰とはコウノトリを軸に自然再生と地域再生の両立を図る地域づくりと考えることができる（菊地 2006）。コウノトリの観光資源化による自然再生と地域再生の両立が、野生復帰の新たな課題の一つであるといえよう。この課題に向けて、郷公園への来園者の行動や特性を明らかにし、コウノトリの観光資源の現状に関する考察が不可欠である。しかしながら、郷公園の来園者の特性については野生復帰と観光化を論じた浅野ら（2009）があるのみで、十分に研究が進められているとはいえない。

本稿は、筆者らが実施した郷公園来園者を調査対象としたアンケートの単純集計の結果を報告し、来園者の特性を明らかにすることで、コウノトリの観光資源化に関する議論に向けた基礎的情報を提示することを目的とする。

### 調査方法

筆者は慶應義塾大学の沼田あゆみ教授と豊岡市と但馬信用金庫と共同で、コウノトリ放鳥の経済効果算出を目的にしたアンケート調査を3回実施した。第1回目は2008年11月に実施し796名の回答を得、第2回目は2009年4月と5月に実施し554名、第3回目は同年8月に実施し214名、合計1,564の回答を得た。以下の分析では、3回分の調査を合算したデータを使用する。調査場所は郷公園である。郷公園で実施した理由は、豊岡市を訪問した観光客の多くが立ち寄る場所であり、多様な目的を持つ観光客を対象としたアンケートを実施するのに好都合であるからである。この調査から導き出された経済波及効果に関しては、大沼・山本（2009）、来園者の詳細な分析は菊地（2012）がある。

### 郷公園来園者の特性

#### 1. 回答者の属性

回答者の属性についてみてみよう。性別は、男性が48.8%、女性が48.5%とほぼ半々であった。年齢は、10-20代が11.3%、30代が20.0%、40代が16.8%、50代が21.4%、60歳以上が28.5%であった（表2）。60歳以上が

表2. 回答者の年齢構成.

年 代	人 数	割合 (%)
10代	12	0.8
20代	164	10.5
30代	313	20.0
40代	263	16.8
50代	335	21.4
60歳以上	446	28.5
無回答	31	2.0
計	1,564	100.0

表3. 回答者の旅行形態.

旅 行 形 態	人 数	割合 (%)
団体旅行	130	8.3
観光つきパッケージ旅行	23	1.5
フリープランのパッケージ旅行	10	0.6
個人旅行	1,399	89.5
無回答	2	0.1
計	1,564	100.0

表4. 回答者の同伴者.

同 伴 者	人 数	割合 (%)
ひとり	59	3.8
夫 婦	470	30.1
子供連れ家族	504	32.2
その他家族	203	13.0
友人知人	182	11.6
仕事仲間	68	4.3
婦人会等	56	3.6
学校の団体	2	0.1
無回答	20	1.3
計	1,564	100.0

最も多く、中高年齢層がかなりの割合を占めている。旅行形態は個人旅行が89.5%を占め、団体旅行は8.3%、観光つきパッケージ旅行が1.5%、フリープランのパッケージ旅行は0.6%と圧倒的に個人旅行が多い(表3)。ただ、団体旅行は時間的制約から協力してもらいにくいいため、過小になっている可能性がある。同伴者は、ひとりが3.8%、夫婦が30.1%、子ども連れ家族が32.2%、その他の家族が13.0%、友人知人が11.6%、仕事仲間が4.3%、婦人会等が3.6%、学校の団体が0.1%、その他が1.3%であった(表4)。家族での来園者が約75%と圧倒的に多い結果となった。

豊岡市への滞在期間は日帰りが48.0%、1泊2日が43.7%、2泊3日が4.9%、それ以上が1.3%であった(表5)。日帰りとして2泊3日までの宿泊者がほぼ半々であった。居住地は豊岡市が5.2%、それ以外の兵庫県が32.2%、大阪府が20.6%、兵庫・大阪を除く近畿地方が

表5. 回答者の滞在期間.

滞 在 期 間	人 数	割合 (%)
日帰り	751	48.0
一泊二日	684	43.7
二泊三日	76	4.9
それ以上	21	1.3
無回答	32	2.0
計	1,564	100.0

表6. 回答者の居住地.

居 住 地	人 数	割合 (%)
北海道・東北	3	0.2
関 東	56	3.6
北陸・甲信越	29	1.9
東 海	63	4.0
豊岡市	81	5.2
その他の兵庫県	503	32.2
大阪府	322	20.6
その他の近畿	170	10.9
中 国	80	5.1
四 国	34	2.2
九 州	22	1.4
無回答	201	12.9
計	1,564	100.0

10.9%である。地方別にみると、北海道・東北が0.2%、関東が3.6%、北陸・甲信越が1.9%、東海が4.0%、近畿が68.8%、中国が5.1%、四国が2.2%、九州が1.4%であった(表6)。兵庫・大阪を中心とした近畿からの来園者が圧倒的に多い。また地元の比率が高く、郷公園は地元住民が訪問する施設でもある。

## 2. 回答者の行動

豊岡市への観光目的は、「周遊観光」が51.2%と半数を占めている。次いで「保護休養」が16.8%となっている。「帰省や親族訪問」が6.4%、「業務」が1.7%、「祭りやイベント」が1.5%、「スポーツ」が0.9%、「その他」が5.9%であった(表7)。「コウノトリ」を選択肢として加えたのは2回目の調査からであるが、2回目と3回目をあわせてみるとコウノトリ目的の来園者は20.1%となっている。コウノトリ目的は2番目に多い結果となった。

豊岡市への訪問回数は1度目が27.2%と最も高くなっているが、4~10度も22.1%と高くなっている。21度以上が3.5%であることは注目に値する。また地元は6.5%と多いことも特徴的である(表8)。全体的にリピーターが多い傾向といえる。郷公園以外の豊岡市内の立ち寄り場所は、城下町出石が45.8%、城崎温泉が43.5%、

表7. 回答者の豊岡市への観光目的.

観光目的	第1回 2008年11月	第2回 2009年4月5日	第3回 2009年8月	合計
周遊観光	411 ( 51.6)	264 ( 47.7)	125 ( 58.4)	800 ( 51.2)
保護休養	148 ( 18.6)	81 ( 14.6)	34 ( 15.9)	263 ( 16.8)
スポーツ	11 ( 1.4)	2 ( 0.4)	1 ( 0.5)	14 ( 0.9)
祭りやイベント	21 ( 2.6)	2 ( 0.4)	1 ( 0.5)	24 ( 1.5)
業 務	10 ( 1.3)	9 ( 1.6)	7 ( 3.3)	26 ( 1.7)
帰省や親族訪問	28 ( 3.5)	61 ( 11.0)	11 ( 5.1)	100 ( 6.4)
コウノトリ	-	122 ( 22.0)	32 ( 15.0)	154
その他	162 ( 20.4)	12 ( 2.2)	3 ( 1.4)	177 ( 11.3)
無回答	5 ( 0.6)	1 ( 0.2)	0 ( 0.0)	6 ( 0.4)
合 計	796 (100.0)	554 (100.0)	214 (100.0)	1,564 (100.0)

括弧内は割合 (%) を示す.

注: 「コウノトリ」を加えたのは2回目以降であるので, 合計における「コウノトリ」の比率は表示していない. なお, 2回目, 3回目調査を合算した「コウノトリ」の比率は, 20.1%である.

表8. 回答者の豊岡市への訪問回数.

訪問回数	人 数	割合 (%)
1 度目	426	27.2
2 度目	212	13.6
3 度目	245	15.7
4 ~10度目	346	22.1
11~20度目	71	4.5
21度以上	55	3.5
地 元	102	6.5
無回答	39	2.5
計	1,564	100.0

表9. 今回の旅行中の兵庫県立コウノトリの郷公園以外への立ち寄り場所 (複数回答可).

	人 数	割合 (%)
城下町出石	717	45.8
玄武洞公園	309	19.8
城崎温泉	681	43.5
城崎マリンワールド	262	16.8
植村直己冒険館	154	9.8
無回答	295	18.9
回答者数	1,564	-

玄武洞公園が19.8%, 城崎マリンワールド (水族館) が16.8%, 植村直己冒険館が9.8%であった (表9). 出石や城崎温泉は季節による変動があまりないが, 玄武洞公園と城崎マリンワールドは夏季が高く, 季節による変動が大きい. 最も多い出石と城崎が5割弱である. 豊岡市内での立ち寄り箇所数は, 0箇所が18.9% (郷公園のみ), 1箇所が43.3%, 2箇所が24.2%, 3箇所が10.4%, 4箇所以上が3.3%であった (表10). 複数の箇所をあまり立ち寄らない傾向にあるといえる.

表10. 今回の旅行中の兵庫県立コウノトリの郷公園以外への立ち寄り箇所数.

	人 数	割合 (%)
0 箇所	295	18.9
1 箇所	677	43.3
2 箇所	378	24.2
3 箇所	162	10.4
4 箇所以上	52	3.3
計	1,564	100.0

豊岡市内での一人当たりの消費金額は, 全体で14,025円であった. 内訳は宿泊費が7,566円 (53.9%), お土産品購入が3,341円 (23.8%), 飲食費が2,174円 (15.5%), 交通費が433円 (3.1%), その他が512円 (3.7%) である. 季節ごとでみると, 秋季 (11月) が14,734円, 春季 (4月5日) が11,279円, 夏季 (8月) が17,401円と夏季が高い.

宿泊客の消費額が23,247円であるのに対し, 日帰り客のそれは4,038円であった. 宿泊客の内訳は, 宿泊費が14,518円 (62.5%) (3), お土産品購入が4,356円 (18.7%), 飲食費が2,999円 (12.9%), 交通費が658円 (2.8%), その他が707円 (3.0%) であった. 日帰り客の内訳は, お土産品購入が2,245円 (55.6%), 飲食費が1,282円 (31.7%), 交通費が190円 (4.7%), その他が301円 (7.5%) であった (表11).

購入したお土産品であるが, 「コウノトリグッズ」が22.8%, 「お菓子」が46.6%, 「出石そば」が29.3%, 「お米」が4.0%, 「地酒・ビール」が14.2%, 「海産物」が29.1%, 「豊岡かばん」が9.4%, 「その他」が6.7%であった (表12). 多くの来園者が, 多くの観光地で定番のお土産であるお菓子や地酒・ビールを購入しているが,

表11. 豊岡市内での一人当たりの消費額単価の推計 (円).

	回答者数	交通費	宿泊費	飲食費	お土産品購入	その他	総額
日帰り	751	190	0	1,282	2,245	301	4,038
宿泊	781	658	14,518	2,999	4,356	707	23,247
全体	1,564	433	7,566	2,174	3,341	512	14,025

表12. 今回の旅行中に購入したお土産品 (複数回答可).

お土産品	人数	割合 (%)
コウノトリグッズ	357	22.8
お菓子	729	46.6
出石そば	458	29.3
お米	62	4.0
地酒・ビール	222	14.2
海産物	455	29.1
豊岡かばん	147	9.4
その他	105	6.7
無回答	206	13.2
回答者数	1,564	-

コウノトリグッズ, コウノトリ育む米, 豊岡かばんという豊岡ならではのお土産品の購入者の比率も一定程度占めている. コウノトリグッズの売り上げは, コウノトリによる直接的な経済効果として期待されるが, 第1回調査が25.0%, 第2回が21.5%, 第3回が18.2%と減少傾向にある.

### 3. 豊岡市への評価

来訪しての感想は, 「とても楽しかった」が36.3%, 「楽しかった」が58.1%と肯定的な感想を持った人が約95%を占めている (表13). ただ「とても楽しかった」の比率は, 第1回調査の44.3%から第2回調査では30.0%, 第3回調査では22.4%と大きく減少する傾向にある. 再訪の希望を聞いたところ, はいが87.2%を占め, いいえは0.3%であった (表14). ほとんどの回答者が再訪の希望をもっていることは注目し値する. ただ, はいの比率は第1回調査が87.7%, 第2回調査が89.5%, 第3回調査が79.4%と若干減少傾向にある. リピーターが多いとともに再訪の希望が高いことから, リピーターが維持される可能性は高いと推測できる.

豊岡市の景観や雰囲気について尋ねたところ, 「とてもよい」が41.8%, 「良い」が52.5%であった (表15). 合わせると9割以上の回答者が良いと回答しており, 景観や雰囲気への評価は高いといえる. ただ, 「とても良い」の比率は第1回調査の47.2%から第2回目には38.6%, 第3回目には29.9%と減少傾向にある. 豊岡市の案内表示について尋ねたところ, 「とても良い」が18.5%, 「良い」が61.5%, 「あまり良くない」が11.2%, 「悪い」が

表13. 回答者の豊岡市を来訪しての感想.

	人数	割合 (%)
とても楽しかった	567	36.3
楽しかった	909	58.1
あまり楽しくなかった	7	0.4
つまらなかった	0	0.0
無回答	76	4.9
計	1,564	100.0

表14. 回答者の豊岡市への再訪の希望.

	人数	割合 (%)
はい	1,364	87.2
いいえ	4	0.3
わからない	102	6.5
無回答	94	6.0
計	1,564	100.0

表15. 回答者の豊岡市の景観や雰囲気への評価.

評価	人数	割合 (%)
とても良い	654	41.8
良い	821	52.5
あまり良くない	10	0.6
悪い	0	0.0
無回答	79	5.1
計	1,564	100.0

表16. 回答者の豊岡市の案内表示への評価.

評価	人数	割合 (%)
とても良い	290	18.5
良い	962	61.5
あまり良くない	175	11.2
悪い	32	2.0
無回答	105	6.7
計	1,564	100.0

表17. 回答者の豊岡市の人びとの対応への評価.

評価	人数	割合 (%)
とても良い	521	33.3
良い	898	57.4
あまり良くない	10	0.6
悪い	5	0.3
無回答	124	7.9
計	1,564	100.0

2.0%であった(表16)。全体的に評価は高いが、「とても良い」の比率は第1回目の25.9%から第2回目10.1%、第3回目13.1%と減少傾向にある。豊岡市の人々の対応を尋ねたところ、「とても良い」が33.3%、「良い」が57.4%、「あまり良くない」が0.6%、「悪い」が0.3%であった(表17)。回答者の評価は極めて高いが、「とても良い」は、第1回目の41.1%から第2回目25.3%、第3回目25.2%と減少傾向にある。

## 分析

アンケートの結果から郷公園への来園者の特性をまとめてみよう。男女は半々で、年齢は50代以上の中高年層が多くなっている。家族単位での個人旅行が多数を占め、同伴者は家族が7割、滞在日数は日帰り短期の宿泊が半々であり、居住地を近畿圏とする回答者が7割近い。阪神圏の人びとが短期訪問する家族旅行の目的地として選択されているといえる。観光目的は周遊観光が半数を占めているが、コウノトリ目的も2割ある。コウノトリそのものを目的に豊岡市を訪問している層が一定程度形成されている。

注目すべき点として、第1にコウノトリ目的の観光客が一定程度存在していることがあげられる。コウノトリは但馬地方の重要な観光資源となっている。第2にリピーターが多いことがあげられる。訪問回数が21度以上の回答者が3.5%を占めており、コアなコウノトリファン層が一定程度いると推測できる。多くの観光地がリピーターを増やすことを目指していてもなかなか成果が出ないなか、注目すべき点である。第3に、満足度と再訪希望、豊岡市の人びとの対応への満足度も極めて高く、来園者の豊岡市への評価は高いと推測できる。コウノトリをはじめとした豊岡市の観光資源の魅力が大きいことを示唆している。このことから、今後も継続してリピーターが訪問し、観光の効果が持続する可能性は高いといえる。コウノトリは観光資源として相対的に高い価値を有しているといえよう。

課題としては、第1に近畿圏からの来園者が圧倒的に多いのに対し、首都圏や中京圏といった大都市からの来園者が少なく、コウノトリは全国レベルでの観光資源といえないことがあげられる。首都圏や中京圏からの来園者の増加が課題である。第2に、宿泊客が少ないことがあげられる。上で述べたように近畿圏という日帰り圏からの来園者が多いためであろう。宿泊客による豊岡市内での消費額は大きく、経済波及効果という点において、特に大きな課題である。第3に、豊岡市への評価は高い

が、その評価は減少傾向にあることも課題である。コウノトリの資源的価値を高める工夫が求められている。

## おわりに

「観光のまちづくり」が提唱されているように(敷田ほか2009)、地域の自然環境や文化を資源化して、観光客の訪問を促すことで地域振興をすすめるだけでなく、観光からの利益を地域に再投資し、資源的価値のさらなる向上と持続的な利用を図ることが重要であると認識されるようになっている。利用するだけで再投資しないならば、資源は劣化してしまい、持続的に利用することは困難になるからである。

コウノトリの観光資源化は、地域社会に新しい持続的な産業の基盤を与えており、その効果が持続する可能性は高い。ただ来園者数が減少傾向にあること、豊岡市への評価が減少傾向にあることから、現状のままではコウノトリの観光資源化による地域振興は、縮小傾向になることが推測される。コウノトリを軸に持続的な地域づくりを推進するためには、コウノトリという資源に再投資し観光資源としての魅力の向上を図ることが不可欠である。さらに、観光からの利益を地域に還元し、資源的価値のさらなる向上と持続的な利用を図るシステムを構築することが課題である。

この課題に対し、菊地(2012)は、本アンケート調査のデータを用いて、コウノトリ観光客の特性を解明し、観光資源のマネジメントのシステムについての考察を深めることでアプローチした。

## 注

- (1) 2005年の放鳥以降、コウノトリに関する報道件数が飛躍的に増加していることも影響しているだろう。ただ、来園者数は2006年度をピークに減少傾向にある。2010年度に大きく減少しているのは、鳥インフルエンザ対策により、郷公園の西公開ケージで公開していたコウノトリが飼育下に収容されたことも影響している。
- (2) 大沼・山本はアンケートから一人当たりの消費額を日帰りと宿泊に分けて推計している。その結果、日帰り客の4.56億円と宿泊客の3.36億円を合計し、最終需要の増分は約7.96億円と推計した。さらに、経済波及効果も加え、10.3億円と推計している。
- (3) 宿泊客と日帰り客がほぼ半々であることから、全体の宿泊費は宿泊客の宿泊費に対してほぼ半額になっている。

## 摘 要

2005年の放鳥以降、野生復帰の拠点である兵庫県立コウノトリの郷公園には、多くの来園者が訪問している。野生復帰の新たな課題として、コウノトリの観光資源化による自然再生と地域再生の両立をあげられる。この課題に向けて、郷公園への来園者の行動や特性を明らかにすることが不可欠である。本稿では、来園者を調査対象としたアンケートの単純集計の結果を報告し、その特性を明らかにした。

来園者の特性は、第1にコウノトリ目的の観光客が一定程度存在していること、第2にリピーターが多いこと、第3に満足度と再訪希望が極めて高いことがあげられる。

課題は、第1に近畿圏からの来園者が圧倒的に多く、コウノトリは全国レベルでの観光資源といえないこと、第2に宿泊客が少ないこと、第3に豊岡市への評価は高いが、減少傾向にあることがあげられる。

現状ではコウノトリの観光資源的価値は高いと評価で

きるが、資源としての魅力の向上が求められている。

キーワード コウノトリ、観光資源、兵庫県立コウノトリの郷公園、自然再生と地域再生の両立

## 引用文献

- 浅野敏久・林健児郎・李 光美・塔 娜 (2009) コウノトリの野生復帰と観光化—来訪者アンケート調査から—。環境科学研究 (広島大学大学院総合科学研究科紀要Ⅱ), 4: 35-50.
- 菊地直樹 (2006) 蘇るコウノトリ—野生復帰から地域再生へ—。東京大学出版会, 東京, i+263 p.
- 菊地直樹 (2012) 野生復帰を軸にしたコウノトリの観光資源化とその課題。湿地研究, 2: 3-13.
- 大沼あゆみ・山本雅資 (2009) 兵庫県豊岡市におけるコウノトリ野生復帰をめぐる経済分析—コウノトリ育む農法の経済的背景とコウノトリの野生復帰がもたらす地域経済への効果—。三田学会雑誌, 102(2): 3-23.
- 敷田麻実・内田純一・森重昌之 (編) (2009) 観光の地域ブランディング。学芸出版社, 京都, 190 p.

(2011年8月8日受理)